

説明書(手術、麻酔、治療法)

私は、患者 _____ 様の(手術、麻酔、治療法)について、次のとおり説明いたしました。

現在の診断名、原因

1 診断名: 脊椎腫瘍

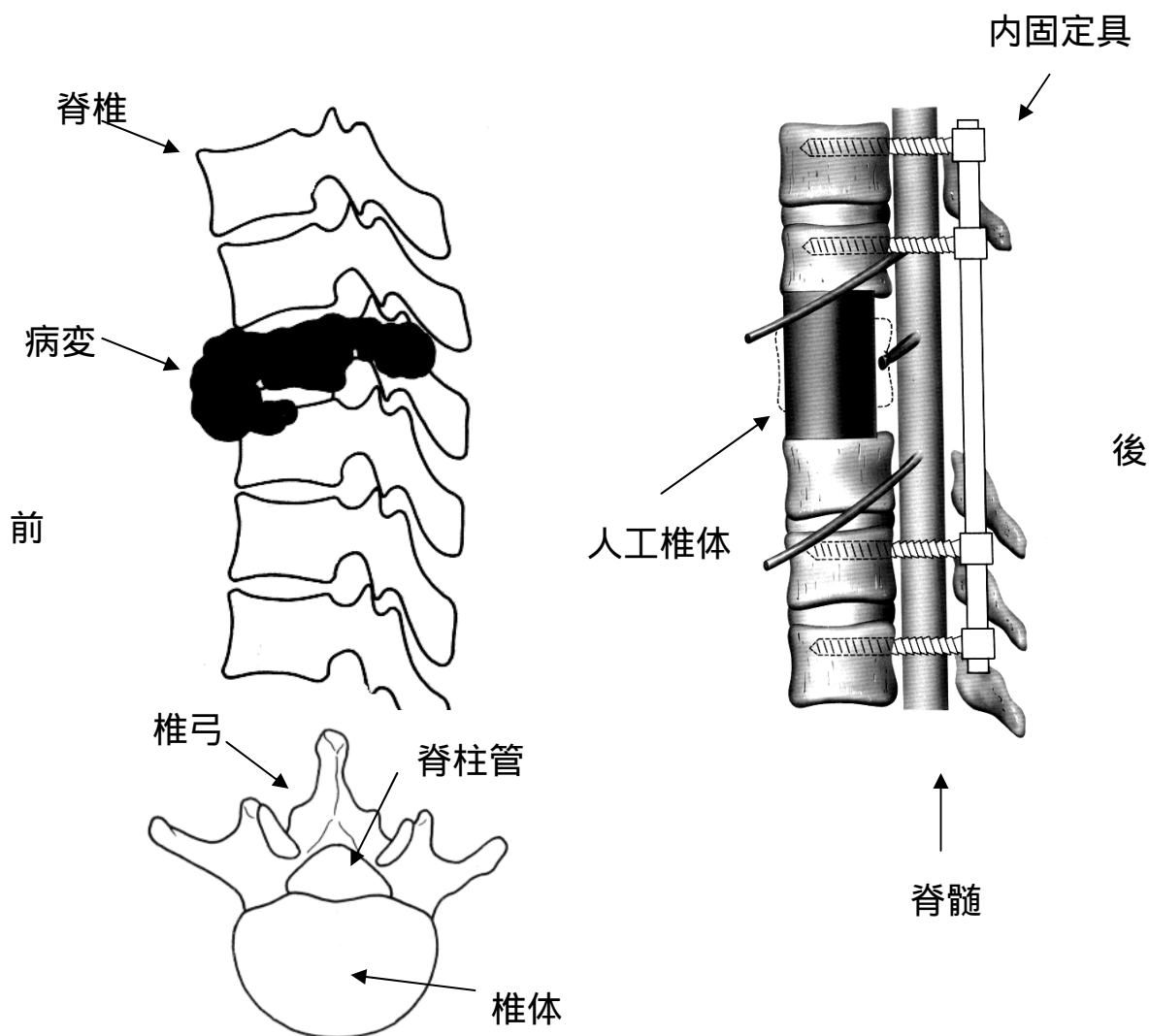
2 原因: 脊椎の腫瘍によって脊髄が圧迫され疼痛・不全麻痺が生じています。

予定されている手術の名称と方法

1 麻酔: 全身麻酔

2 手術名: 脊椎腫瘍切除・固定術・椎弓切除術

3 方法: 背部の後方を縦に切開します。脊椎の後方(椎弓)および腫瘍の一部を切除し、脊髄の圧迫を除きます。切除部位の頭尾側の脊椎に金属性の内固定具を設置して、脊椎の安定化を図ります。



手術に伴い期待される効果と限界

1 効果：局所の治療および疼痛・不全麻痺の進行防止または軽減されることが期待されます。

2 限界：局所の再発・他の部位への転移の可能性もあります。手術自体が危険を伴います。原疾患がある場合には、原疾患そのものの治療とはなりません。

手術を受けない場合に予測される病状の推移と可能な他の治療法

1 予測される病状の推移：疼痛・骨破壊・不全麻痺(しびれ, 運動障害, 歩行障害, 排尿障害)が進行する可能性が高いと思われます。

2 可能な他の治療法:放射線療法・化学療法があります。

予測される合併症とその危険性

1 麻酔に伴う合併症：気管の腫脹, 血圧低下などの可能性があります。肺炎、脳卒中、心筋梗塞、麻酔のアレルギーなどで死亡する可能性もあります(1%以下)。

2 手術によって、脊柱のみではなく、周囲の筋・靭帯等も切除されます。そのための疼痛・運動制限・日常生活の制限がおこりえます。

3 手術によって、脊髄を障害する可能性があり、麻痺の悪化もありえます。最悪の場合、歩行不能・排尿排便障害となる危険性があります(数%)。

4 感染症:手術では最大限清潔な操作を行っておりますが、感染の危険はゼロではありません(約1%)。感染を生じると内固定具を抜去しないといけません。すると脊椎の安定性が失われ、きわめて困難な問題が生じます。

5 血栓症：術後に足の静脈内で血が固まり詰まることがあります。この場合は足がむくむだけでなく、血の固まりが心臓や肺などにとぶ可能性があります。心臓や肺などの血管が詰まると命にかかります(1%未満)。定期的に検査を行って、この徴候が見られたら固まりを溶かすよう点滴を行います。

6 輸血に伴う合併症:手術中、あるいは手術後に必要になった場合、輸血する可能性があります。その場合、輸血による副作用が出現する可能性があります。

7 その他：胸腔チューブを行うことがあります。

硬膜外血腫・脊髄液漏出

術中の体位(腹臥位)による 皮膚圧迫(顔面, 眼球, 胸部, 骨盤部など)

大腿皮神経麻痺(大腿前面のしびれ感)

長期的に硬膜周囲の瘢痕, 硬膜内の神経癒着, 脊椎の不安定性など。

予測できない偶発症の可能性とそれに対する対応策

偶発的な合併症が出現する危険性もありますが、これらに対しては適宜病状を説明した上で治療に努めます。

説明方法

(口頭、診療録、画像、図、模型、その他)

上記方法を使って説明をしました。

同席者

・患者側氏名:

・病院側氏名:

平成 年 月 日

岡山大学医学部附属病院整形外科 主治医(署名) _____

医師(署名) _____

承諾書

私は現在の病状及び手術、麻酔、治療法の必要性とその内容、これに伴う危険性について十分な説明を受け、理解しましたので、その実施を承諾します。
なお、実施中に緊急の処置を行う必要性が生じた場合には、適宜処置されることについても承諾します。

平成 年 月 日

患者 住所

氏名(署名) _____

同意者 住所

氏名(署名) _____

(患者との続柄)

_____ 病院長殿